

(仮称) 国立市第6次ジェンダー平等推進計画素案パブリックコメント結果

期間：令和5年11月22日（水）～12月12日（火） 意見数：2件（2名）

意見	回答
<p>主な取組③については、子どもの育成に関わる大人に「ジェンダー平等」だけでなく、「SOGIを決めつけない対応」についても研修をしてほしい。普段矢川プラスをよく利用するが、職員が少し騒いでいる子どもに向かって「お兄ちゃん、走らないで！」などと、ミスジェンダリングになりかねない対応をしているのを目にしたことがある。矢川プラスのトイレがインクルーシブなのは評価できることだが、そこで働く職員の意識が低いままだと、せっかくの施策や設備であっても傷つく子どもがいるはず。そして、これを市内の子ども食堂や駄菓子屋などで、子どもと直接かかわる大人にも広げていってほしい。子どもたちのためによかれと思ってかけた一言が、その子どものSOGIを尊重していないのではないかと、実際に感じたことがあるため。</p>	<p>子どもに関わる市職員向けの研修としては、令和3年度に保育士や学童保育所職員向けのジェンダー・SOGI研修を初めて実施し、今後も定期的実施することを予定しています。その他の市職員に対しても、「SOGIを決めつけない対応」について十分に認識することができるように、引き続き研修を進めていきます。また、私立幼稚園の保育士や子ども食堂の職員等についても、啓発方法を検討していきます。</p>
<p>国立市第6次ジェンダー平等推進計画素案を読みました。細部にわたって目の行き届いた、よい計画だと思います。昨今の報道にある性被害（セクシュアルハラスメント、男児・男性への性暴力）、LGBTとトイレ問題にも触れており、幼児期からの人権教育、性教育の必要をあらためて感じますので、その点、指導者への啓発も書かれておりよかったですと思います。先日、国立市人権月間2023イベントでの講演で、日本の人権意識、人権教育、人権政策の遅れが言われていました。世界基準（先進国として）でかなり遅れているとのこと。遅れた政策、教育によって培われた意識のまま、自覚なく人権侵害を続けることから抜け出すためにも必要な、ソーシャルインクルージョンを謳う国立市にふさわしい計画だと思います。</p>	<p>ジェンダー平等については、昨今あらゆる領域で注目が集まっているところです。計画素案についても様々な視点を盛り込むように作成しました。ジェンダー平等に関する教育・啓発をはじめとして、様々な施策を計画に沿って着実に進めていきます。</p>